

事業名	佐倉学体験講座 竹炭づくり体験						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
日程	令和3年11月25・26日	講師	中村 恵夫	参加費	700円（材料費）		
対象者	市内在住・在勤の成人	参加者数 (延べ)	20名	募集方法	こうほう佐倉10月15日号 弥富公民館だより10月号		
趣旨	弥富地区において昔より伝わる竹炭づくりを体験することにより、弥富地区の自然と伝統的な農村の生活について理解を深めるとともに、竹炭づくりの楽しさと竹炭の現在の生活への活用を学ぶ。						
内容	弥富地区では江戸時代から炭の製造が盛んで、クヌギやナラ、マツを原料とした「佐倉炭」というブランド炭ができるほど良質な炭の産地であったこと、また、炭を燃料として使用していた時代は、自宅用の炭は大部分が自分で焼いた炭を利用し、炭づくりが副業ともなっていたことを説明し、その後、講師所有の炭窯で材料の調達が容易な竹の炭焼きを体験、翌日完成した竹炭と竹酢液を参加者で分け合い、普段の生活で活用する。						
工夫	例年であれば、時間短縮のためあらかじめ炭焼きを済ませておき、取り出し→窯入れ→火入れ→観察と通常と異なる工程で実施していたが、日程を2日間取ることにより、窯入れ→火入れ→観察→（翌日）取り出しと、実際の工程に即した事業を行った。なお、例年は午前・午後の1日であった事業を午前だけの2日間としたことは、感染症予防対策として、従前の昼食会を開催しないこととする意図もあった。						
成果	参加者それぞれが下駄箱の消臭、インテリア、土壌改良など竹炭の活用方法のアイデアを話し合うことができた。また、炭窯の仕組みや作り方など、積極的に講師から学んでいた。この講座に市民カレッジから竹林の保全活動を始めた団体の方が参加され、今後の活動へのサポートができた。						
課題	参加者10人に対し炭窯が1つのため、交代で各工程の作業を体験してもらうのが理想だが、作業の独占が発生してしまっていたり、講師の指示と異なることをしたりしていたため、担当による軌道修正の方法を良く考える必要がある。休暇を取って講座に参加された方がいらしたが、この事業に限らず、土日や夜間に事業を行うなど、若い世代が参加しやすい事業設定を検討する必要がある。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う必要があるか。 市民や利用者のニーズに合っているか。 目的や役割が薄れていないか。 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に情報は流れているか。 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果が得られているか。 さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 市民の満足度は高いか。
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性はどうか。 事業運営に学習者が参画しているか。 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》

良い ← A B C D → 良くない

《判定例》

A	A	A	A	A	A
A	A	B	A	A	A
A	A	B	A	B	B

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		(特になし)
総合評価	A	
委員②		2日の事業としたことで本格的な竹炭づくりが体験できたようです。また、定員を大きく上回る希望者がいたことは、ニーズに合っていたと考えられます。設備の問題があるため、可能であれば、1回の人数を少し減らし、2回開催ができれば良いと思いました。
総合評価	A	
委員③		竹炭づくりも地域伝承の技能であり、公的機関を会場に広める機会を設けたことは、価値がある事業だと考えます。 自然由来の素材を活用し、いろいろところで使用する機会のある竹炭で、SDGsにもあてはまると考えます。 今後、地域でいっそう広めるためにも継続的に計画し、ぜひ後世に残してほしいと思いました。 次年度展望 ①
総合評価	A	
委員④		私も以前、竹炭作りを別な場所で体験したことがありました。(煙とにおいで大変でしたが)作った竹炭は、今も我が家にあります。(大切にしています)
総合評価	A	
委員⑤		地域の歴史を知る良い機会となった。日程を増やすなどの感染予防対策の配慮もあり参加者も安心して体験ができたと思う。
総合評価	A	
委員⑥		感染対策により、日程を2日間取ることで、実際の工程に即した事業となり、参加者にとってはより理解が深められたと思います。又、伝統的な農村の生活を体験でき、竹炭づくりの楽しさを味わい竹酢液の活用方法の話し合い等、有意義であったと思います。
総合評価	A	
委員⑦		「竹林の保全」に関わっておられる参加者がいたことは心強いことです。中央公民館の竹細工との連携にも期待できそうです。弥富には塩古ざるの伝統もあり若い世代にも広く呼びかけ、参加し易い方法を検討することはとても重要だと思えます。
総合評価	A	
委員⑧		弥富地区では江戸時代から炭の製造が盛んで「佐倉炭」というブランド炭を江戸に運ばれたと言われている。弥富地区の伝統的な炭づくりを「竹炭づくり」体験に立ち上げ、楽しさと竹炭を生活への活用方法を学ばれている。弥富地区の自然と伝統的な観点から継続を望みます。
総合評価	A	

委員⑨		竹炭づくりは手間のかかる工程があり、これを2日間に分けて開催したのは公民館側の工夫によるもので良かったと思います。 竹炭ではありますが、佐倉炭の歴史を伝えていってほしいと思います。
総合評価	A	

委員⑩		一般的に竹炭の作り方を知る人はほとんどいないと思われますが、江戸時代から炭づくりの盛んな弥富地区で、「竹炭づくり体験」事業を長年継続されていることは非常に意義のあることです。窯入れから竹炭の取り出しまでの2日間の体験を通して、佐倉藩が「佐倉炭」を江戸まで出荷していたことや竹炭の現在での活用方法、それに弥富地区の自然や伝統を学ぶことは、成人教育の佐倉学体験講座として継続して下さい。
総合評価	A	

委員⑪		新型コロナ禍での事業運営に評価をさせていただきます。 事業そのものが、日常生活の中では、経験できないことで、興味深い事業運営だと思えます。 この経験を生かし、豊かな生活に役立てるために、今後、日常の中で趣味的に興味を持ちつつけてもらうためのアフターケアを考えて行くとなお強い継続性が生れるように感じます。
総合評価	A	

委員⑫		江戸時代から続く竹炭の歴史や技術を学ぶことは、たいへん興味深いです。完成した竹炭を自宅で実用的に活用できることは、自宅に帰った後に、家族で竹炭についての会話が広がり、さらに興味を持つ方が増えるという良い循環が生まれます。今後もぜひ続けていただきたいと思えます。
総合評価	A	

委員⑬		歴史上、佐倉の発展において「佐倉炭」は重要です。それに興味を持つ方は多く居られることでしょう。課題に表しているように多くの方が学ぶ機会を得られるように工夫、検討を期待します。
総合評価	A	

委員⑭		昨年度の「佐倉炭」の座学から今年度は炭焼きの実践講座なので一貫性があり良かったと思えます。10名の募集に対して大勢の応募者があったようで、竹炭に関心を持っている人が多いのに驚きました。窯の大きさや作業効率を考えると、10名位が適切な人数のように思えます。受講希望者が多い時は、講師の方の負担もありますが、講座日を増やすことも考えられるのではないのでしょうか。
総合評価	A	

委員⑮		<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉市体験講座のひとつとして竹炭づくり体験を取り上げた事業は、参加者の感想から主体的に学んだことが伝わり成果がうかがえます。 ・コロナ禍に対応して日程の工夫をしていることも、感染防止のために良かったと思えます。 ・課題として、参加人数が施設の規模により制限されることで、より多くの方に参加していただくための工夫が求められますし、土日の実施を考えることも可能なら喜ばれます。1回に10名の参加者は少ないので、回数を増やすことも検討することを求めます。
総合評価	A	